



公益財団法人SAJ

SAJ Farm 通信

vol.94
2018年 5月号

公益財団法人
School Aid Japan

〒144-0043

東京都大田区羽田 1-1-3

TEL: 03-5737-2773

FAX: 03-5737-2793

<http://www.schoolaidjapan.or.jp>

雨と共に準備開始

皆さんこんにちは。今年は例年に比べて一足早く雨季が到来しました。5月初旬、一週間に1度降るか降らないかだった雨が、5月の下旬には毎日頻繁に降ようになってきました。干上がっていた川も水量が増え、近隣の農家さん達は、田植えの準備のため苗づくりを始めました。6月になったら近隣の田んぼでは田植えが始まります。今月は畑の準備の様子等お伝えしたいと思います。



オクラの種を播種するスタッフ

◇オクラ、ホーリーバジルの種まき

5月農場ではオクラ、ホーリーバジルの種まきを行いました。オクラはプノンペンにある日系のスーパーに卸すため、ホーリーバジルはレモングラス以外の精油を作るため栽培します。畑から採ってきたバケツ一杯の土に、堆肥をスコップ1杯混ぜ、水を適度に加えて湿らせます。こうしてできた培土をセルトレーに詰め、それぞれの種を分けてセルトレーに播種します。種1つでは発芽しないこともあるため、一つの場所に種を2つ以上播種します。オクラは早ければ3週間後、ホーリーバジルは1か月後に畑に植え替える予定です。



土に削られ短くなった刃

◇トラクターロータリー刃交換

5月、SAJFarmではオクラやレモングラスの畑を耕すため、トラクターのロータリーの刃を交換しました。畑にオクラやレモングラスの苗を移植する時は、事前にトラクターのロータリーで畑の土を柔らかく耕しておきます。しかしSAJFarmの土は砂を多く含んでいる為、ヤスリで研がれるようにすぐに刃が削れて短くなってしまいます。写真は交換前と交換後の刃です。刃が短くなると、深く耕すことができないだけでなく、最悪の場合機械が壊れて買い替えなければなりません。日本のように機械や部品がないカンボジアでは、定期的に交換、点検を行うことは故障や事故を未然に防ぐ上で、とても重要になってきます。



タルに入った堆肥を畑に蒔くスタッフ

◇堆肥を蒔く作業

レモングラスの定植準備のために、畑に堆肥を施肥しました。SAJFarm で作っている堆肥は、鶏糞とコーヒー粕、レモングラス残渣、牛糞、米ぬか、稲わらなどを積み重ねて3か月以上発酵させてから畑に撒きます。堆肥は発酵させることで微生物に、分解され、植物が栄養を取りやすい状態になり、レモングラスが大きく成長する手助けになります。日本では堆肥はトラクターを使って、機械で散布できます。しかしSAJFarmには堆肥を散布する機械がないため、堆肥をタルに詰め込んで、トラックで畑まで運搬してから人の手で撒きます。炎天下での施肥作業はとても大変で、現地のスタッフも汗と堆肥にまみれながら作業を進めています。



大雨の宿舎前の様子。一面が水たまりに変化します

◇大雨到来

SAJFarmにも大雨が降るようになりました。SAJFarmの宿舎の前は雨が降ると写真のように水たまりであふれています。農場のあちこちに水たまりとぬかるみが出てしまい、2輪駆動のトラックではぬかるみから出られなくなることもしばしばです。カンボジアの雨は短時間のうちに強く激しい雨が降ります。雨が降る前には大抵の場合低気圧の影響で風が強くなり、すぐに土砂降りの雨が降ります。農場は周りに風を遮るものがないため、度々作業場や部屋の中まで雨が吹き込んできます。作業場の机やイスが吹き飛ばされるため、暴風雨が吹くときは全て倉庫に入れ、作業も倉庫の中で行っています。



お祭りにあっただけのスピードで回る観覧車

◇地元のお祭り

5月14日国王誕生日の祭日に農場近くのお寺でお祭りが開催されました。近隣の地域の中で最も大きなお祭りで、ポーサットやプノンペン、バタンバンなどの遠くの州からたくさんの方が見学に訪れます。お寺は山の上にあり、階段を300段ほど登ってつべんに仏像が安置されています。山頂からの景色は周りが一望でき素晴らしい景色でした。山のふもとには屋台がたくさん並び、遊園地のような観覧車や遊具がひしめき合っていました。普段はほとんど人通りも少ないお寺ですが、年に一度この時だけはプノンペンにも劣らないほどの人で溢れかえっていました。